

「心からスポーツを
楽しめる子どもに」

総務部会長 大西浩明



平素は、奈良市スポーツ少年団本部事業にご理解ご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

各団におかれましては、コロナ禍における団活動に大変ご苦労されていることと思えます。子どもたちが楽しみにしている大会や行事がままならず、「中止になりました」という通知を聞くたびにがっかりしているのではないでしょう。か。本部事業も、この二年間は残念ながら中止にせざるを得ないものが数多くありました。本当に一日も早い収束を願うばかりです。

そんな中で開催された、東京オリンピック・パラリンピック夏季大会と北京オリンピック・パラリンピック冬季大会では、多くの日本選手が大活躍し、私たちに多くの勇氣と感動を届けてくれました。その中から私が特に印象深かったこと、考えたことを書いて

みようと思います。

まず、東京オリンピックで初めて正式採用されたスケートボード。十代の若い選手たちが技を競い合う中、西矢栞選手が十三歳で見事に金メダルを獲得しました。それも素晴らしいことですが、最後に逆転を狙って難しい大技に挑んだ岡本碧優選手が失敗したときに、それまで競っていた多くの外国人選手が駆け寄って彼女を称えるように担ぎ上げた光景が本当に素晴らしいと思えました。同じような場面が、北京オリンピックのスノーボードビッグエアでも、岩淵麗菜選手が失敗したときに見られました。メダルの色や国など関係ない。果敢にチャレンジする姿を互いにリスペクトしあう文化がそこにあることが、うれしく感じました。

もう一つは、北京オリンピックのスキージャンプ混合団体で、スーツ規定違反で失格となってしまう高梨沙羅選手についてです。審査の方法など様々な異論はありましたが、彼女は失意の中でも2回目に大ジャンプを見せました。ただ、試合後SNSで謝罪の言葉を述べました。そのときに思ったのは、なぜ彼女は謝るのか、誰に謝っているのかということ。彼女を責める人が日本の中にいたでしょう。か。むしろ、2回目に見せた大ジャンプに感動した人の方

が多いのではないのでしょうか。半世紀前の東京オリンピックのころならば、オリンピック自体が国威発場の場であって、「国の威信にかけて」というようなものもあつたかもしれません。が、今の時代はそうではないと思うのです。一人一人がその競技を愛し、真摯に向き合って楽しんで取り組む先にオリンピックがあるのだと思います。

私たちは、子どもたちとスポーツを通して向き合う中で、「誰一人取り残すことなく」心からスポーツを楽しめる子どもを育てたいと思えます。そして、一人一人の思いを互いに尊重し合える子どもたちに成長してほしいと心から願っています。そんな子どもたちを育てることができそうです。今後とも各団においてご指導いただきまう、よろしくお願いたします。



令和3年度 全国・近畿大会派遣一覧

1 第34回近畿ブロックスポ少
軟式野球交流大会
開催地 京都府各地
出場 奈良北ゴールデンカイト

2 第39回近畿ブロックスポ少
バレーボール交流大会
開催地 姫路市
出場 若草ジュニアバレー

3 第15回全国中学生少林寺拳法大会
開催地 福岡県久留米市
出場 藤岡明史三、中川陽介
(少林寺拳法奈良東市)

4 第45回近畿小学生バレーボール大会
開催地 堺市
出場 若草ジュニアバレー

5 全日本卓球選手権大会（カデットの部）
開催地 愛知県豊田市
出場 和田奈都姫、鎌谷優妃、西村百恵
米元優歩、神農堅汰（高の原T.C）

6 第19回全国スポ少バレーボール交流大会
開催地 西宮市
出場 若草ジュニアバレー
近畿ブロック予選会

7 第30回全国小学校バドミントン選手権大会
開催地 和歌山市
出場 亀岡大樹、上月龍星、東澤夏愛
熊木凜乃（鴻ノ池中央バドミントン）
近畿ブロック予選会

令和3年度奈良県スポーツ少年団
顕彰表彰者

- 1 こなべスポーツ少年団 井上順治氏
- 2 こなべスポーツ少年団 上村武史氏
- 3 鴻ノ池道場スポーツ少年団 山口匡知氏
(順不同)

「スキー教室」

普及部会 梅元 直子

一月十五日土曜日、滋賀県の函館山スキー場にて、二年ぶりにスキー教室を実施しました。

まだ暗い朝の六時、奈良西少年剣道クラブの元気な子どもたち九名を乗せ、市役所を出発しました。例年と違い、マスクをして一人ずつ座っていたので、静かな乗車風景でした。

バスに乗り込んでから、二時間半ほどで駐車場に到着しました。バスを降り、スキー場上がるゴンドラを待つ間、早速、道路脇に寄せてある雪を投げながら遊び出す子どもたちがいきました。少しはしゃぎすぎると、上級生が注意をする姿も見られ、日頃のまともりのある団の様子が垣間見られました。

ゴンドラに乗り、しばらくすると眼下に広がる琵琶湖の風景。朝は少し曇天でしたが青空もだんだん見え始め、景色は最高でした。絶好のスキー日和。ゴンドラを降りると一面の銀世界。さらに信州かと思うほどの良い雪質。子どもたちは、大はしゃぎでした。スキーウェアに着替え、ブーツを履き、いよいよ、ゲレンデへ。

初めての子は、最初、汗をびっしょりかきながら、慣れない板をはき、斜面を登っては滑りのしんどい練習を繰り返しました。でもさすがスポーツ少年団の子ども達です。誰一人弱音を吐かず、一時間もするとリフトに乗って、斜面を滑って降りることができました。昼からは、どの班も指導者に見守られながら、何度か一人でリフトに乗り、下まで止まらず楽しそうに滑っていました。

また、スキーだけでなく、お昼の休憩時間も、ご飯を食べるとすぐ外に出て、雪の山に登ったり、雪合戦をしたりと、寸暇を惜しんで、元気がいっぱい遊んでいる子どもたくさんいました。あまり雪に触れることのない子ども達にとって大変貴重な体験ができたのではないかと思います。

日帰りのスキー教室でしたが、楽しく、とても充実した講習となりました。来年度は、コロナが収束し、もっとたくさん参加者を迎え、賑やかなスキー教室になることを期待しています。



第55回奈良市スポーツ少年大会 結果

種目	日程	優勝チーム
ミニバスケット	7/17、18	男 都跡/女 富雄北
バドミントン	11/3	男 鴻ノ池A 女 登美ヶ丘A
剣道	11/20	※個人戦のみ実施
サッカー	11/23	ソレステレージャ
少林寺拳法	12/5	緑帯以下、茶黒帯、 中学の部 東市
学童野球・バレーボール	※コロナのため中止	

Nara City Junior Sport Clubs Branch Since 1966



※野外活動教室、体力づくり大会に関しては、コロナ感染拡大防止のため、中止させていただきました。

【単位団紹介】
☆佐保台ウイザーズ
(ミニバスケットボール)

小学校一年生〜六年生に、よって構成されている、小学生のバスケットボールクラブチームです。八村塁選手が、NBAのウイザーズに入る前から、佐保台はウイザーズという名前で活動しています。もうひとりのNBA選手、渡邊雄太選手は小学生の時に、何度か佐保台に試合に来てくれました。

卒業団生たちは、大学〜大学院まで、バスケットを続け、医学界、マスコミ、教育の場で、強い意思を持ち、活躍しています。佐保台の指導は、小学生の間だけ強ければいいーというような指導者の自分勝手な指導はしません。社会に出た時に、バスケットをしていながら頑張れたーそう思ってもらえるような指導をしています。

基本的には、奈良県内の小学生対象ですが、佐保台小学校が、京都府との県境にあるため、京都からの入部希望者も多数来られます。



コーチ陣は、小学生の時からバスケットを始め、大学院までバスケットをしていたコーチや、小中高と、トップレベルのバスケットをして、アメリカの大学で、学びアメリカナイズされた感覚の持ち主のコーチなど、多彩な顔ぶれです。

是非、一度体験してみてください。本当に楽しいバスケットをー！



(入部希望等お問合せは、スポーツ少年団本部まで)